

平成26年度 総合目録ネットワークへのデータ提供に関するアンケート 結果

アンケート回収率

59/69 館	85.5%
---------	-------

2014年6月20日～7月31日実施

※中央館が分館についても回答する都道府県については、中央館のみを回収対象とした。

1 今後のシステム入替の予定について

平成26年度中	6 館
平成27年度中	15 館
平成28年度中	8 館
平成29年度以降	13 館
時期未定	0 館
予定なし	17 館

システム更新予定がある館のデータ形式の変更予定について

予定あり	6 館
予定なし	12 館
未定	15 館
データ未提供館のため設問なし	9 館

変更内容

(のべ)

ID体系変更	3 館
MARCタイプ変更	3 館
DC-NDL(RDF)フォーマット切替	5 館
共通フォーマット版変更	0 館

ID体系変更の際は、全データの入れ替えが必要となります。また、DC-NDL(RDF)フォーマットへの切替えの場合も、書誌詳細画面への直接遷移を実現するため、原則、全データの入替が必要です。

なお、MARCタイプ変更への切替えおよび、共通フォーマットの版変更が生じる場合は、リプレース後の新システムから抽出された初回差分データを確認します。

上記のいずれかに該当する場合は、事前にご相談をお願いします。

2 図書館システムについて

図書館システムのベンダー

NEC	21 館
富士通	25 館
NTTデータ	5 館
日立製作所	5 館
その他	3 館

OAI-PMHへの対応状況（国立国会図書館サーチとのOAI-PMH連携済、連携調整中の館を除く）

対応している	3 館
ILSパッケージが対応を予定している	5 館

対応していない	37 館
分からない	6 館

書誌詳細画面の直接表示

できる	32 館
できない	9 館

国立国会図書館サーチでは、OAI-PMH(メタデータを交換する標準的な仕組み)という人手を介さない自動的なデータ連携を推奨しています。また、OAI-PMH連携に伴い、国立国会図書館サーチの書誌詳細画面から資料所蔵館OPACの書誌詳細画面へ、直接リンクする仕組みを実現し始めています。

データ提供方式を従来のFTPやHTTP-GETからOAI-PMHへ切替えるため、システムリプレース等のタイミングで図書館システムへのOAI-PMH実装をご検討いただければと思います。国立国会図書館サーチとのOAI-PMH連携に関する説明は、下記ページでご覧いただけます。

[国立国会図書館サーチについて > 国立国会図書館総合目録ネットワークデータ提供館の方へ](#)

3 MARCについて

利用MARC	(のべ)
TRC-MARC	47 館
NS-MARC(日販)	11 館
JAPAN/MARC	20 館
NACSIS-CAT	4 館
トーハン	1 館
その他	28 館

4 横断検索システムについて

県域横断検索システムのベンダー

NEC	9 館
富士通	17 館
NTTデータ	5 館
日立製作所	4 館
その他	7 館

OpenURL対応

対応している	5 館
対応していない	35 館
分からない	2 館

横断検索の実現方法

横断検索の実現方法	(のべ)
市町村立で統一パッケージを導入	16 館
市町村立が書誌データを送付	3 館
スクレイピングで抽出	29 館
WebAPI	3 館

5 データ提供方法・頻度について

“和図書”以外の条件指定

指定している	12 館
していない	35 館

大量のデータ追加予定

ある	5 館
ない	42 館

更新データ転送の自動化

している	9 館
していない	25 館
その他	5 館

更新データ転送の頻度（国立国会図書館サーチとのOAI-PMH連携済館を除く）

毎日	0 館
毎週	11 館
隔週	3 館
毎月	13 館
年に数回	5 館
その他	7 館

6 OAI-PMHへの切り替えに関する主なご意見・ご感想

メタデータの交換プロトコルとしての標準仕様であるOAI-PMHをもとにメタデータを集約し、統合検索インターフェースを構築することは積極的にすすめるべきだと考えております。
 現在、当館でも導入に向けた調整作業を行っておりますが、ベンダーの導入に対する感度があまりよいものではないことも現場では感じる場合があります。ベンダーに対する啓発、教育等も必要になっているかもしれません。また、調達時にきちんとこのプロトコルを導入することを明記するよう図書館側にも啓発したほうが良いと思います。

OAI-PMHによる連携システムについて、当館のベンダー企業に問い合わせをしたが、そのノウハウがないようだ。また当館は蔵書データは未提供で、国立国会図書館とのデータ連携に関しても当館もベンダー企業もノウハウがない。今後、県立図書館+政令市図書館の横断検索を目論んでいるのであれば、対象の図書館ばかりでなく、図書館システムを取り扱う日本全国の企業にも知れ渡るよう、国立国会図書館からもPRをしていただきたい。

いまだ毎回手動で差分抽出から転送までの作業を行っている当館のような館は次期システムで、どう変えればよいのか、OAI-PMHでの連携について調達の仕様書に具体的にどう書けばよいのか等具体的に知りたい。
 また、OAI-PMHでの連携を採用している館の事例およびその問題点なども知りたい。

従来と比較して総目上の当館所蔵状況の更新が迅速になり、また手作業による定期的な送信業務が解消し事務量が軽減されました。

アンケートのご協力をありがとうございました。
 いただいたご意見は、今後のゆにかねっと運営に活用してまいります。
 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。